



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/18 (月)				祝日 (海の日)			
7/19 (火)	+ 900	+ 6,800	+ 7,700	国庫短期証券 発行・償還 (3M)			1-0圏: CPI (6月)
7/20 (水)	+ 500	+ 2,000	+ 2,500	国庫短期証券 発行・償還 (1Y)			日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 1-0圏: 消費者信頼感指数 (7月) 英: CPI (6月)
7/21 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	流動性供給			日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: 景気先行指標総合指数 (6月) 1-0圏: ECB政策金利発表、ラガルド総裁記者会見
7/22 (金)	▲ 1,500	+ 2,000	+ 500				日: 全国CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初547兆9,300億円から始まった。13日の税揚げを主因として同残高は542兆9,200億円まで減少、その後国債買入オペや財政等要因を経て544兆4,800億円となり越週した。
無担保コールON物は先週同様、大手行を中心に調達意欲が強く、堅調な地合いとなり同加重平均金利は△0.010～△0.007%で推移した。週末となる15日は一部先において積み最終の調整需要が強く積極的な調達姿勢であった一方、新積み期にかかる複数日積みでもあり調達量を抑制する動きも散見されたことから同金利は△0.014%まで低下し越週した。
ターム物は新積み期スタートの2W～1M物の中心に、主に△0.035%～△0.020%の水準で出合が見られた。
来週の主な予定は、日銀金融政策決定会合 (20・21日)、6月の全国CPIの公表 (22日) などがあり、海外ではECB政策金利の公表 (21日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

今週の足許GC取引は、週初△0.15%近辺の出合いから始まった。その後週末までは△0.20～△0.11%近辺の出合いで推移。新積み期間に入る14日以降の取引ではレート上昇し、短国3Mの入札が行われた15日の取引は△0.09%近辺まで上昇して越週した。
SC取引では2年430～438回債、5年149～151回債、10年350～367回債、20年170～180回債、30年65～74回債、40年9～13回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.001 ~ 0.001

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆2,900億円で、週間償還額 (約7,500億円) を上回った。発行市場は、5・10日発行での新規案件と、電気業や石油製品、鉄鋼等の幅広い業種で大型の発行が行われた。発行残高は先週末の26兆8,213億円から、14日時点では27兆4,243億円に増加した。市場残高が引き続き積みあがっており、発行レートは、0%近辺中心から若干のプラスレートでの出合いとなった。
来週の週間償還額は、約2,600億円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少なくなるものの、資金調達ニーズは根強く、発行超が予想される。発行レートは、0%近辺での出合いが多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。

<TDB>

7月15日の3M1094回債の入札は、最高落札利回り△0.1317% (前回債△0.1348%)、平均落札利回り△0.1386% (前回債△0.1419%) となった。来週は19日に1Y、20日に6M、22日に3Mの入札がある。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。